

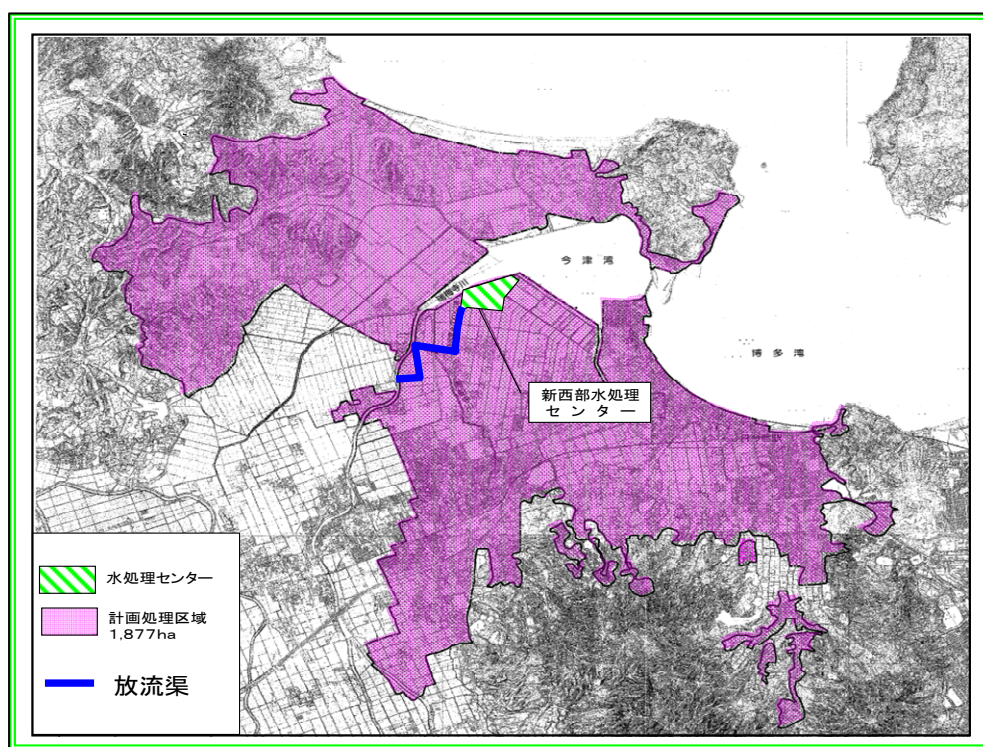
① 新西部水処理センター整備目的及び整備スケジュール

福岡市西区の西部地域においては、九州大学移転に伴う学術研究都市づくりが進められており、研究開発機能の誘致や居住環境、アクセス道路の整備など、開発による汚水量の増大が見込まれる。一方、これを受け入れる西部水処理センターにおいては、全体計画汚水量に対応した窒素・リン同時除去の高度処理施設導入に必要な水処理用地を確保できないことから、西部処理区を二つに分割し、同処理区の西部地域を処理区とする新西部水処理センターが必要となった。

新西部水処理センターは二級河川瑞梅寺川右岸に位置し、敷地面積は12.5ha、全体計画処理面積1,877ha、日最大計画汚水量77,000m³/日で、水処理方式は「凝集剤併用ステップ流入式多段硝化脱窒法+急速ろ過」を採用している。この背景として、当センターの放流先である瑞梅寺川下流には、絶滅が危惧されるクロツラヘラサギやカプトガニなどの貴重な生物が多数生息する今津干潟が位置しており、水処理は栄養塩類の高度な除去が必要であったためである。なお、消毒方式については、生態系に配慮し紫外線消毒を採用している。

整備スケジュールを5期に分けて計画しており、第1期（日最大計画汚水量15,400m³/日）の稼働開始を平成25年度に予定している。

◇ 新西部水処理センター計画処理区域図



② 環境監視の必要性

新西部水処理センターは、本市の中でも特に自然豊かな今津干潟を形成する瑞梅寺川河口に隣接して立地し、その放流先は瑞梅寺川上流に位置する。このため、放流開始に当たっては、新西部水処理センターの放流に伴う環境影響をモニタリングにより把握し、自然環境や社会環境を保全する必要がある。